

NEWS LETTER

# KYU-UEDA KEJUTAKU

## INFORMATION

八尾市指定文化財 安中新田会所跡  
旧植田家住宅だより

Volume 11

2012年1月発行

コンサートイベント

エド・バツハⅢ

特集

知るう！学ぼう！楽しもう！  
八尾の文化財

文学に見る八尾

『今東光の昭和32年』



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

## 展示のご案内



日用品から工芸品まで

“用”と“美”の世界

## 企画展「植田家の漆器」

期間：2012年2月2日(木)～3月28日(水)

※休館日については、「休館日のご案内」(15p)をご覧ください

### コンサートイベント

#### 「エド・バッハⅢ～江戸とバッハの時代をこえて～」

江戸時代中期。宝永元年（1704）に大和川が付け替えられた時代、西洋では偉大な音楽家バッハらが活躍していた。チェロとチェンバロの音色が旧家で響きあうコンサート「エド・バッハⅢ」。詳しい内容は、本誌4・5頁に掲載。

#### ※チェンバロ（鍵盤楽器）

主に18世紀のバロック時代に活躍した鍵盤楽器。発音原理は、ピアノがハンマーで弦を叩いて音を出す構造（打弦楽器）であるのに対し、チェンバロは爪で弦を弾く構造（發弦楽器）になっている。

表紙写真：安藤氏所有のチェンバロ

4

コンサートイベント  
「エド・バッハⅢ」  
～江戸とバッハの時代をこえて～



6

八尾再発見～文学に見る八尾～  
「今東光の昭和 32 年」に参加して

7

こどもガイド養成講座 1

8

八尾市内文化財保存公開施設連携強化事業  
「知ろう！学ぼう！楽しもう！  
八尾の文化財」～旧植田家住宅編～



10

研究の一と ファイル1「十錦手のやきもの」

11

出前授業の話 2

12

なにわの伝統野菜栽培日記⑪

13

待ちに待った「もちつき大会」



14

コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五)」

15

今後のお知らせ

旧家で響きあう

チェロとチェンバロの

ささやかな饗宴

コンサートイベント

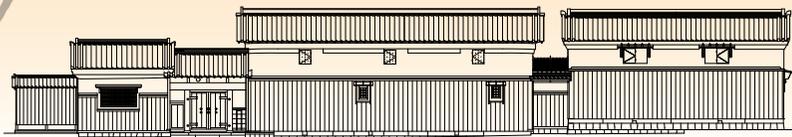
# エド・バッハⅢ

～江戸とバッハの時代をこえて～



2011.10.15

in 安中新田会所跡 旧植田家住宅



およそ二五〇年の歴史をもつ安中新田会所跡 旧植田家住宅の建物を使ったコンサートが今年も行なわれた。今回で三回目となる同イベントは、地域に縁のある音楽家を招き、音楽を通して歴史や文化を体感してもらおうと企画されている。そして今年も、元大阪フィルハーモニー交響楽団のチェリストで八尾市在住の音楽家・安藤信行さんと奥様の晴子さんをお迎えし、チェロとチェンバロが旧家に木魂(こだま)するコンサート「エド・バッハ」が開催された。

## ○「エド・バッハ」って？

人の名前みたいだが、西洋の偉大な音楽家「J.S. バッハ(一六八五～一七五〇)」が、大阪の歴史的な大事業である大和川付け替えの行なわれた「江戸時代」に活躍していたことにちなんで付けられたタイトルである。その内容も、バッハの曲を中心に、同時代の作曲家の音楽が演奏される、まさに「江戸とバッハ」のコンサートである。



またチェロとチェンバロによるアンサンブルだけでなく、楽器の個性がわかる独奏や安藤信行さんの楽しいお話がさらにコンサートを盛り上げる。そしてなんといつても、旧家に響き渡る楽器の音色が「エド・バッハ」最大の魅力である。コンサートホールとはひと味違った雰囲気を感じることができる。

## ○「江戸とバッハの

時代をこえて」

さて、コンサートはチェンバロの構造や歴史についてのお話からスタートした。分かりやすい解説にユーモアを交えながらのトークは流石である。その中で、最初の曲《調子の良い鍛冶屋》(G.F.ヘンデル)がチェンバロの独奏によって演奏された。軽快なテンポの曲に会場からは明るい拍手が起こった。

続くヘンデルの《チェロ・ソナタ第一番 ト短調》では、チェンバロのゆったりとした旋律から始まり、次第にチェロがそこに重なり合っていく。



静かな第一楽章から勢いのある第二楽章へ、落ち着きを保った第三楽章から再び勇ましい第四楽章へと、あつという間に曲は終わりを迎えた。



ここからは「エド・バッハ」のメインともいえる、J.S.バッハのプログラムに入る。まずは前回も演奏された《ガンバとチェンバロのためのソナタ》。今回は「エド・バッハⅢ」にちなんで「第三番」の第一楽章が、チェロとチェンバロによって豪快に演奏された。

続いてプログラムでは、《無伴奏チェロ組曲第一番》

の予定であったが、ライブならではの流れで、次のプログラム《G線上のアリア》が先に演奏された。有名な曲ともあり、会場はしばしその美しい旋律に包まれ、和やかなムードが漂った。《無伴奏チェロ組曲》の独奏では、今年も熱の入った演奏で、約十五分の間、色とりどりに変化するチェロの音色が時代を超えて現代に鳴り響いた。

コンサートは後半を迎え、ここで今回のタイトルにもある「時代をこえた」プログラムがさらに展開された。内容は、滝廉太郎(二八七九〜一九〇三)など日本の作曲家による歌曲などが中心となり、最後には現代の日本の音楽が数曲演奏され、その意外な展開に会場は大いに沸いた。そして約一時間半のコンサートはアンコールの《鳥の歌》で静かに幕を閉じた。

次回「エド・バッハ」の開催は未定だが、今後この建物を使った音楽会や舞台なども計画されている。ぜひ、生の芸術・文化にふれてほしい。乞うご期待。



# 八尾再発見〜文学に見る八尾〜 『今東光の昭和32年』

に参加して

吉井清子（今東光を語る会会員）

伊東健氏により、今東光氏に再会できたことを人生の僥倖と感じている。

講演のテーマである「昭和32年」、私はおかげの帽子をかけた幼稚園児であった。翌三十三年には制服制帽ランドセル姿で、東光氏が講師を勤めた帝塚山学院短大のある帝塚山三丁目の駅から帝塚山学院小学部へ通う小学一年生となっていた。伊東氏は、冒頭で「本日のテーマである昭和三十二年に僕は影も形もありません」と述べていたが、年齢の隔たりはあるにしても、私は東光氏と同時代に同じ場所の空気を吸った人間である。

しかし、本好きを自認する花の女子校生は、「風立ちぬ」や「こころ」というタイトルには心惹かれたが、「悪名」というタイトルは全く心に響かず、いかに売れっ子作家であったとしても今東光氏は全く興味の外であった。

そして平成十二年、伊東氏にコミュニティ放送FMちゃおで今東光氏について語っていただいたことから私と東光氏との再会の道筋が開かれた。

放送で語られた昭和三十年前後に文学のみならず、八木一夫や鴨居羊子等ジャンルを超えた人々と交流する姿は、時の東光氏の六十歳前後という年齢を忘れさせられる青春そのものであった。私の知らない東光氏との出会いだった。

今回の講演「今東光の昭和32年」の素材となった「鴨東雑記」は、まさにその時代を東光氏自身が日記の形で記したものだ。

この日記を読んだならば東光氏に好感を抱かずにはいられないだろう。昭和三十二年一月二七日に「お吟さま」により直木賞受賞のウナ電（至急電報）が入り、取材や祝い客などでてんやわんやの日々が見事に活写されている。その後の相次ぐ執筆依頼で忙しくふらふらなのに約束していた講演にでかけ、なぜか天台院の常連たちと鳴門の渦潮見物に出かけたりにしているのだ。愛すべき人ではないか。私は十年余り前、「今東光を語る会」に参加をしたものの当初は、八尾に住んでいた直木賞作家だが、口の悪い生臭坊主で食えない人という印象をまだひきずっていた。だが、

伊東氏の語る東光氏は、音楽を好み、絵画で身を立てる志を持ちつつも偉大な才能の前にそれを断念、文学に没頭し、歴史を学び、僧侶としての修行を積んだ人であった。また、その縁で暮らすこととなった河内の風土に触れて、今これを残すのが自分の役目と作家としてどんどん作品を発表し、河内を世に知らしめた人だった。

今回、達人とも言える書き振りの日記「鴨東雑記」により、また魅力の一端に触れることが出来た。

再会後、私は伊東氏のナビゲートにより今東光という大海を泳いでいる。まだ一度も足が底についたと感じたことも、対岸が見えたような気がしたこともない。広く深い海である。しかし、焦らずたゆたうには素晴らしき海である。今後もしばしこの海を楽しませていただこうと考えている。



講演中の伊東健氏  
(2011.11.26 旧植田家住宅にて)

# こどもガイド

## ようせいこうざ 養成講座 ①

12月10日(土)

主屋1階をガイド



全三回で完結する「こどもガイド養成講座」も二週目に突入し、新たな参加者と内容で再び第一回が開講された。大まかな流れはこれまでと同じだが、より実践的にガイドができるようになった。

まずは安中新田と旧植田家住宅の役割についての歴史的な話を聞く。そのまま主屋一階をガイドできるように、各部屋の特徴と場所について覚えてもらった。何度も足を運んでいる子どもたちも、植田家の知らないことをたくさん知ることができ、一生懸命取り組んでくれた様子だった。

最後には「わらなわ作り」を体験してもらい、終始、楽しそうにわらなわを作っていた。体験を通して、むかしの生活の良さや苦労なども感じてもらったのではないだろうか。

(以下は講座終了後のみんなの感想)

○植田家の事を知れてよかった!!

(五年 M.K.)

○わらなわ作りが楽しかった!説明できそうにないけど...

(五年 M.U.)

○むかしの人のくらしがわかったから楽しかった。ふだん自分が入っていた入口は、ほんとうの入口じゃなかったのでビックリしました。

わらなわづくりがむずかしかった。けど、おもしろかった。二回目も楽しみにしています☆

(五年 H.I.)

○いろいろな部屋にいろいろな意味があつてすごかった。わらなわを作るのがむずかしかった。

(五年 M.Y.)

○わたしは、これで四回目で、一番多い回数、こどもガイド養成講座に行っているのですが、今日の講座を聞くと、「あっそれ知ってる」というのがいっぱいできました。これも、こどもガイドのおかげだなあと思いました。楽しかったです。(五年 A.B.)

## ふれあいとぬくもりの商店街



JR八尾駅前商業協同組合

# 知ろう！学ぼう！楽しもう！

## 八尾の文化財 ～旧植田家住宅編～

八尾市内にある各文化財施設では、2011年9月16日(金)～12月19日(月)の期間中、文化庁「平成23年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の補助金を受けて様々な事業が行なわれた。

また、八尾市文化財保護条例施行20周年を記念し、11月の一定期間、各施設の観覧料が無料になる日が設けられた。

### 無料入館日&イベント実施報告

旧植田家住宅では、二〇一一年十一月三日(祝)～十八日(金)の期間、施設の観覧料「無料の日」が設けられた。これに関連して、昔のくらし体験などのイベントが行なわれ、十一月は多くの人たちで賑わった。

また、歴史民俗資料館をはじめ、市内の各文化財関連施設の連携を強化すべく、文化庁の補助金を受けて様々なイベントも開催された。ここでは、その一部を旧植田家住宅に関連したイベントを中心に紹介する。

◎十一月二日(火)、アリオ八尾のレッドコートで、八尾の文化財をPRするイベントが開催され、旧植田家住宅も微力ながら参加した。

歴史民俗資料館、しおんじやま古墳学習館、埋蔵文化財調査センターとの四館合同企画となったこのイベントでは、各施設の紹介や八尾の文化財マップといったパネル展示がメインとなった。

他には綿くり・糸紡ぎや、埴輪パズル、塗り絵などの体験コーナーも設けられ、訪れた人を楽しませたり感心させたりし

た。また、第一回八尾の歴キャラ総選挙が開催され、旧植田家住宅からは「マンジーくん」と「きゅうちゃん」がエントリーしたが、惜しくも上位入賞は逃した。アリオのような大きな商業スペースは広い範囲からの集客がある。普段はなかなか施設に足を運んでもらえない層へのPRができたことは大きな収穫である。また、他の施設のスタッフと交流が持たことなど、副次的な効果も大きかったのではないだろうか。



マンジーくん

文化財を  
PR。

アリオイベント



きゅうちゃん

◎十一月六日(日)には、「歴史ハイキング」として、旧植田家住宅主催のまち歩きイベント「旧大和川を歩く〜ぶらり長瀬川〜」が実施された。この日は、前日から降り続いてきた雨も上がり、暑すぎず寒すぎない曇り空で、絶好のまち歩き日和となった。

イベントには総勢十六名が参加。コースはJR志紀駅からJR八尾駅に向かって、旧大和川(長瀬川)の川筋を探索するといふもので、マップ師・北村茂章氏が作成したオリジナルマップを片手に、約三時間の道のりを歩いた。

途中チェックポイントとなる史跡や名勝、旧大和川の堤(跡)がわかる場所ちよつと変わった場所など、合計十八カ所を巡り、旧大和川と八尾の歴史を体感することができた。また、昔からある風景が大きく様変わりしている様子も見ることができ、様々な発見があった。

イベントは朝九時から出発し、定刻どおり十二時の解散となった。参加者からは、次回まち歩きの開催を期待する声が多く聞かれた。



## 八尾の歴史を再発見!

### <歴史ハイキング> 旧大和川を歩く 〜ぶらり長瀬川〜

## 旧植田家住宅で 昔のくらし体験



かまどで  
ごはん炊き

## むかしの 大そうじ



◎十一月十三日(日)は「昔のくらし体験」として、「かまどでごはん炊き」と「ちよつと昔の大掃除」を行なった。ご年配の方には懐かしく、若い方には、なかなか新鮮なイベントだったようだ。

かまどの火加減はスタッフの指導のもと、子どもたちにもやってもらった。「毎日こんなことすんの大変やなあ」と言っていたのが印象に残っている。苦勞して炊きあがったご飯は格別においしかったかも?

大掃除では、ハタキを作るところから始めてもらった。作ったハタキを片手に、高いところにたまったホコリをパタパタ。普段の掃除で手が届かないところがきれいになった。次に、ほうきを持って落としたホコリを掃き集め、最後は雑巾で拭いて仕上げ。汚れた雑巾を見て、満足そうだった。

今回ちよつとしたお楽しみでやってもらったのが障子の張り替え。もちろん、張り替えはうまくいったのだが、子どもたちは張り替える前の障子紙を破るのが楽しかったようだ。そのあたりは、今も昔も変わらない。

# 研究 のーと

Investigation  
Note

## ファイル1 「十錦手のやきもの」

関西大学大学院文学研究科  
谷口 弘美



《色絵山水草花文皿》



《色絵山水草花文茶碗》

「十錦手のやきもの」である《色絵山水草花文皿》・《色絵山水草花文茶碗》が、現在、旧植田家の土蔵に展示されている。「十錦手」とは、模様の異なった10種類の色絵（とくに狭彩※の色絵）のことで、赤・緑・黄・桃色など鮮やかな色調で描かれているのが特徴である。

もともと十錦手のやきものは、中国（景德鎮窯など）でつくられていたようだが、日本で特色をなしたのは、愛媛県伊予市郡中（灘町、湊町、三島町辺り）の郡中焼（郡中十錦）である。葉種商の小谷屋友九郎（号坤斎）が天保年間（一八三〇～四四）末ごろから明治初期（一八七〇ごろ）につくらせた趣味性の強い作風のもので、量産には至っていないが、天保から文久年間

（二八六一～六四）の末ごろまでが最盛期とされている。砥部焼（愛媛県伊予郡砥部町）製の色絵素地に青緑・赤・桃・褐・薄青・白・臙脂黒・金彩などの上絵具※を厚く塗り、さらに線彫りを施した10客絵替わりの組皿や組碗などがある。

昨夏、私が訪れた三川内窯（長崎県佐世保市）において、非常によく似た十錦手のやきものを見つけたことができた。三川内焼の歴史は古く、文禄・慶長の役に参戦した26代平戸藩主松浦鎮信（法印）が慶長三年（一五九八）帰還の折、熊川の陶工巨関を連れて帰り、平戸中野紙漉において窯を焼成させたことに始まる。その後、巨関およびその子・三之丞親子は陶土を求めて領内各地を徘徊し、三川内の地に

落ち着く。平戸藩の御用窯として厚い保護を受けていた三川内焼は、とりわけ染付、精巧緻密な透し彫りや細工物などのやきものが特徴で、十錦手のやきものは珍しいそうだ。今回、私が見た十錦手のやきものは貴重な資料といえるだろう。

郡中焼、三川内焼、旧植田家所蔵の十錦手のやきものの高台裏には、いずれも呉須※で「清朝乾隆年号風」の銘が記されている。残念ながら現段階では旧植田家所蔵の《色絵山水草花文皿》・《色絵山水草花文茶碗》が何処の窯のものかを特定することができない。よって今後の調査・研究でわかり次第、随時、報告できれば幸いである。

今回は「十錦手のやきもの」を取り上げたが、今後も旧植田家所蔵の資料の研究・調査を行ない、多くのことを明らかにしていきたい。

※狭 彩＝余白を残さずに他の部分をぬりつぶしたものをいう。

※上絵具＝本焼き焼成後に、上絵付けに用いる絵具のこと

※呉 須＝磁器の染め付けに用いる鉱物質の顔料。釉をかけ焼成すると藍青色になる。

# 出前授業

でまえじゅぎょう<sup>2</sup>

先日、近鉄電車の車中で、高校生らしい女の子たちが大和川の場所の話をしていて、中甚兵衛の像があるところ：そうそう甚平、甚平：と楽しそうに話していました。何の話か分かりませんが、近在大和川の小学校出身で、大和川の付け替えのことや、付け替えの功労者である中甚兵衛を知っている様子でした。

旧植田家住宅では、スタッフやNPO法人HICALIのメンバーが小学校の郷土学習のサポートとして出前授業を行なっています。昨年度よりパンフレットを市内の小中学校に配布し、本格的に実施していますが、パンフレットの効果よりも、先生同士の口コミにより広がっているようです。

今まで実施した授業の内容は、主に四年生で「大和川の付け替え」や「河内木綿」と「校区のむかしと大和川」を、三年生で「むかしのくらし」「校区のむかしのようす」について、社会科の副読本『わたしたちの八尾市』の内容に沿ったものになっています。

三年生の「むかしのくらし」では、一日の時間の流れの中で昔のくらしの様子を紹介し、旧植田家住宅に所蔵されている民具などを持ち込み、見たり触ったりしてもらい民具の使い方などを説明しています。その際、単に不向きだけでなく、昔のくらしの知恵や工夫を紹介するようにしています。

「校区のむかしのようす」では、最初に校区の今の様子を写真で紹介し、その後、航空写真で、今のまちの様子と二〇〇年、三〇〇年、五〇年前の校区の様子を今とどう違うか比較し、昔の写真を使って当時のくらしの様子も紹介しています。続いて、江戸時代の校区を地図で示し、旧大和川周辺の校区では、付け替え以前の三〇〇年前の様子を紹介しています。四年生で習う「大和川の付け替え」を身近に感じてもらえればと考えています。

学校によって子どもたちの反応は様々です。スクリーンに映し出される身近な校区の風景を紹介する際には、画像が変わるたびに歓声が上がるところもあれば、静かに見つめているところもあります。いずれの学校の子どもたちからも、授業後に感想と質問がたくさん届き、全体的に、よく聞きよく考えていることに感心させられます。その分こちらも毎回、小学校から申し込みの後、事前に学

校へ打ち合わせに伺うようにし、先生の要望や学校の授業の内容を参考に、授業の内容について工夫しています。

出前授業は、学校への授業のサポートとしての成果をあげていますが、それだけでなく、後年に、電車の中で見かけた高校生のように、子どもたちが郷土の歴史に少しでも興味を持ち、それが郷土への愛着につながっていくといいとおもいます。



## これまでの実施状況

◎2009年度(モデル実施)=2校

- 「日本のすまいとくらし」(5年) [曙川小]
- 「校区のむかし&河内木綿」(4年) [西山本小]

◎2010年度=10校

- 「大和川の付け替え&校区のむかし」(4年) [亀井小・北山本小・志紀小・高安西小・西山本小]
- 「河内木綿」(4年) [龍華小]
- 「むかしのくらし&校区のむかし」(3年) [大正小・永畑小]
- 「むかしのくらし」(3年) [久宝寺小・八尾小]

◎2011年度=8校 ※2012年1月現在

- 「大和川の付け替え&校区のむかし」(4年) [桂小、亀井小、高安西小、西山本小、東山本小、安中小、龍華小]
- 「河内木綿」(4年) [長池小]
- 「むかしのくらし&校区のむかし」(3年) (※実施予定) [桂小、大正小、永畑小、美園小、南山本小]

# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.11

田辺大根フェスタへの道



当初、子どもたちが植えた冬野菜の苗は順調に育っていたのですが、十一月後半になると、何やら例年とは違いが出てきました。田辺大根・天王寺かぶらは、やたらと葉や茎だけが大きくなり、肝心の実そのものは、笑ってしまうほど小さい。

大根は、一番大きそうな物でも、女の手首ほどの太さしかありません。本来なら、この時期になると、ある程度の大きさに成長しているはずなのに、どうも様子がおかしい。この「栽培日記」でも何度か登場する、毎年十二月の中頃に大阪市内で催される「田辺大根フェスタ」で初出陳して

以来、毎回なにかしらの賞を頂いている旧植田家住宅の大根。もちろん今年も目標の最高賞「これぞ田辺大根de賞」を狙っていた担当スタッフ。かなり落ち込む。フェスタへの出陳のために土を耕し、堆肥を混ぜ、毎日、苦手なアオムシを指でつまんでいたのですから（笑）。さて、フェスタの日まで、残すは十日。子どもたちとスタッフの思いは通じるのでしょうか？



【えー？何で〜!?】

天王寺かぶらに関しても、悲しい結果で、早い内から実割れをしてしまい、慌てて収穫するも、半分に割ってみると、全部が真っ黒になり、みごとに空洞。中には、丸々太ったナメクジが…。彼らの栄養源となってしまうようです。結局、ひとくちも人間の口には入らず仕舞い。毎年、同じ時期に、同じように育てているのに、なぜなのでしょう？野菜栽培の難しさに悩むスタッフに、ご意見、ご感想がございましたら、お伝え頂けるとうれしく思います。

【田辺大根フェスタ二〇一〇】

開き直った担当スタッフ。今年の入賞を諦め、お笑い狙いで親指ほどの大きさしかないものを出陳してみた。すると、何とそれが二度目の「葉ぶりがいいde賞」に！狙いは当たりました（笑）。そして昨年

旧植田家住宅でとれた種を植えて、一緒に頭を抱えながら育て、今回初めて出陳された近隣の永畑幼稚園と八尾市役所出張所龍華コミセンの大根は、それぞれ「でっかいde賞」、「がんばったde賞」を受賞しました。二百本近い出陳数の中で、最高賞にはほど遠いものの、三つの賞を頂けたのは本当にうれしいものです。収穫を終え、ぽっこり空いた畑には、大阪しろなと金時人參、そして永畑幼稚園から頂いたブロッコリーが新たに植えられています。次回の収穫は金時人參の予定です。



2度目の「葉ぶりがいいde賞」!

# マンジークン

安富士 暁



十二月二十五日(日)、旧植田家住宅の行事の中で最も賑わう「もちつき大会」が行なわれました。十時の開始から、たくさんの人で土間がいっぱいになり、九七名の参加がありました。薪の炎、煙、もち米の蒸しあがった薫り、こどもたちの歓声、大人の威勢の良い声、そしてつきあがった餅のピカピカな事。これぞ「ザ・もちつき」です。

フーフー言いながら丸餅にして早速試食。美味しい!と、みんな次々におかわり。こどもは黄な粉、大人は大根おろし、そして温まるぜんざいも好評でした。

手返しなど、お手伝いに来てくださった地域の方たちや小学校の先生、また八尾高校の

## 待ちに待った「もちつき大会」



生徒さんたちの応援もあり、大助かりでした。用意した十二臼も予定どおり、正午過ぎには終了。寒い日でしたが、心もお腹も大満足で温かくなりました。

余談ですが、一才の孫も参加し、餅デビューでたくさん食べましたが、お正月は、家では一口も食べませんでした。

加藤 邦枝(旧植田家住宅スタッフ)



おいしいお茶は心を豊かにしてくれます。

暮らしのお茶からギフトまで...

0120-19-1184



店主のおすすめ  
 深蒸し煎茶 芳水 100g/200g  
 深蒸し煎茶 清緑 200g  
 おいしいティーパック 5g×18パック

おいしいお茶は専門店  
**龍華茶舗**

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1 Tel.072-993-5673/Fax.072-923-5828

# 落穂拾い

## — 今東光の董風 — (五)

文・伊東健

前回に引き続いての中尊寺の話題です。中尊寺の国宝を公開する意図を東光は、次のように述べています。

金色堂解体によつていろいろ新しい問題が提起されましたが、三千有余点にあまる国宝を蔵する中尊寺は実是一種の宝庫でありまして、篤信の人あるいは仏教美術の研究者もしくは美術愛好家の今後の研究開発に期待するものであります。

(昭和四三年五月一日 中尊寺発行)

『金色堂大修理落慶記念』より)

そのような東光に中尊寺の拝観料は高いという声が寄せられることもありました。それに対して東光は、次のように応えています。

なぜ高いかという点、この大切な文化財を、オレは日本民族からお預かりしてるんだ。(略) そしておめえたちの、第二、第三の子供、孫、曾孫と子孫にそれを残していかなくちやならん。とな

ると、これは普通の設備から消防防火の設備まで完全にやる必要がある。(昭和五一年十一月二五日)

集英社発行『極道辻説法』より)

東光の真摯な熱い想いが引き継がれた末に、今回の世界文化遺産登録があることを思えば、感慨深いものがあります。

さらに、このような後世に引き継ぐという東光の思想の根本には藤原四代のミイラを見た時に、東光が感じた次のような思いが重なっていたのではないのでしょうか。

金色堂の調査をした時に、秀衡さんの棺を開けてみると、秀衡さんの衣の袖で包むようにしてミイラの傍らに倅の首桶がありました。これは哀れな姿でね、お父さんとしては、てめえは不肖のせがれだった、一族を滅ぼして藤原氏を歴史に埋没させてしまったけれども、まあしかしおれの手に帰ってきたから抱き締めてやる、という感じがしましてね、全く涙なくしては見られない姿でございましたね。(昭和五二年十月三十日 角川書店)

発行『新日本史探訪』より)

中尊寺復興の物語に、八尾市に住んでいた一人の僧侶兼作家が果たした役割を忘れてはならないと思うのです。



“りんごの木”では、障害をもつ人たちが  
ひとつひとつ丁寧に縫製品や  
手織り品をつくり働いています。

# りんごの木

HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人 信貴福祉会  
りんごの木

〒581-0868  
大阪府八尾市西山本町4-15-2  
作業所: TEL/FAX (072) 993-4330  
ショップ: TEL (072) 997-1440  
営業時間: AM 10:00~PM 6:00  
定休日: 日曜日(臨時休業あり)



ブックカバー  
文庫本 (17×31cm)  
新書版 (19×32.5cm)



扇子ケース・扇子付 (24×5cm)

## これからの展示・企画 ご案内

### 展示

◎2月2日(木)～3月28日(水)  
企画展「植田家の漆器」

※土蔵1で関連展示があります。  
あわせてご覧ください



展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」  
第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

◎2月12日(日) 連続講座(全3回)  
「伝統民家無名塾③」(講師:平谷宗隆氏)



(詳しくはお問い合わせください)

## 2・3月の休館日のご案内 ※○印が休館日

### 2 February

日	月	火	水	木	金	土
			①	2	3	4
5	6	⑦	8	9	10	11
12	⑬	⑭	15	16	17	18
19	20	⑳	21	22	23	24
26	27	⑳	29			

### 3 March

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	⑥	7	8	9	10
11	12	⑬	14	15	16	17
18	19	⑳	㉑	㉒	23	24
25	26	⑳	28	29	30	31

4月以降の予定につきましては、現在  
調整中のため、直接お問い合わせ  
いただくか、後日ホームページに掲載  
いたします。

安中新田会所跡 旧植田家住宅へは公共の交通機関をご利用ください ※当施設に駐車場はございません

- JR 大和路線八尾駅下車  
南出口より東へ徒歩 3分
- 近鉄大阪線八尾駅から  
近鉄バス藤井寺駅前行  
JR 八尾駅前バス停下車  
南東へ徒歩 6分
- 大阪府八尾市植松町 1-1-25
- 072-992-5311
- <http://kyu-uedakejutaku.jp>



JR八尾店は、旧植田家住宅  
より西へ約20M。ご利用を  
お待ちしております。

桃 林 堂

常 香  
もなか  
大 坂

- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(渋川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.tourindou100.jp>



# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する現代。人々の価値観は多様化し、本当に大切なものは…。  
そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たちは、人々の生活を豊かにする情報を提供する立場にあり、その在り方を考えてきました。  
生産者のエゴから生まれる「形だけの豊かさ」、人々のニーズが多様化する中で、  
それにあわせて生まれる「限られた豊かさ」、このような豊かさには限界があります。  
これからの社会を考えたとき、本当に必要なのは、  
ただ「人々の生活を豊かにするための情報提供」ではなく、「豊かな生活とは何か？」を考えるプロセスを  
多くの人たちと共有し、一緒に創っていくことではないのでしょうか？

「情報をデザインする。人々とそのプロセスを共有し、  
楽しむことで、継続的・発展的な新しい価値を創る。」

私たちは、そのような存在でありたいと思っています。

たくさんの人につたえる

## 印刷

新聞折り込みを中心とした  
地域経済活性化、印刷事業

たくさんの想いをカタチにする

## コミュニティデザイン

共に考え、継続的な発展へと導く  
コミュニティデザイン事業